

平成 21 年度第 1 回釜石市男女共同参画推進協議会開催結果

1. 開催日時 平成 21 年 7 月 2 日（木）10：00～11：30
2. 場 所 市青葉ビル研修室
3. 出席委員 7 人  
澤田龍明委員、清水静枝委員、岩切久仁委員、清原美夏委員、佐々木晴美委員  
佐藤みゆき委員、平野嘉隆委員
4. 欠席委員 2 人  
太田フジ江委員、菊池亮委員
5. 事務局 5 人  
市長 野田武則、総務企画部長 山崎秀樹、  
少子化対策・男女共同参画推進室 室長 生田久美子、係長 千葉裕美子、主任 中平貴之
6. 傍聴者 2 人  
岩手東海新聞社(株) 鳥居賢司 氏  
三陸ブロードネット(株) 佐藤太一 氏
7. 結 果
  - (1) 開会
  - (2) 市長挨拶  
野田市長が挨拶
  - (3) 協議
    - ① 釜石市男女共同参画推進プラン進捗状況について
    - ② 平成 21 年度事業について
 ①～②について、資料一式をもって事務局より説明し、意見交換を行った。

<各委員発言要旨>

澤田龍明会長	事務局より一通りご説明を頂いた。本日は、念願かなって、市長も 11 時 30 分まで居られる。事務局の説明について、質問、意見等頂きたい。
岩切久仁委員	男女混合名簿の採用校について、パーセンテージが変わらない。教育委員会へのアクションが必要ではないか。
事務局	昨年度は、プランの策定に追われ、なかなか教育委員会へ申し入れる時間がなかった。岩手県の男女共同参画審議会からも採用促進に関する勧告があって、指標としてははずすことはできない旨、教育委員会に説明した経緯はある。小学校は進んでいるが、中学校は統合などによって分母が減り、改善が進まない。これについては根強く働きかけを行っていくしかないと考えている。正しい理解という観点から、教育委員会サイドとして必要なことと思っしてほしい。 今回プランを策定したが、策定作業の中に教育委員会も加わっている。県の教育委員会との関係もあり、内容は理解している。今後、年次的に評価していく中で、更に教育委員会への働きかけを行っていくこととしたい。
澤田龍明会長	市の目標で 100%と定めているからには頑張って頂くしかない。市が言うことを校長先生が聞かないということがあるのだろうか。いつもこの話題になる。
岩切久仁委員	この課題は、軋轢があり、思想があり、いろいろと複雑である。例えば、トイレも男女混合にするのかと言って、変な方に歪み、進む人もいる。望む名簿の使い方の相互理解に及んでいないので、話し合える場があれば良いと思う。指標に残して頂いたのはうれしく思う。
事務局	混合名簿に限らず、思春期講演会も最初は同意を得られなかったが、保健の先生からも、やってもらった方が良くと後押ししてもらい、小笠原先生にお願いして実施した。近年話題になっている携帯電話の諸問題に関する話もしてもらい、良かったと言われた。混合名簿についても、アプローチを考えてみたい。 進捗状況を見てもらって、こんなことをした方が良いのではないかといい意見も頂きたい。市長は「市民と話す日」を設け、市内各所からいろんな話を受け

	<p>ている。意見を聞きに行くというスタンスである。現状のやり方で欠けている点は、各種団体との話し合いである。それで本日、機会をつくって頂いた。少子化対策が市政の大きな柱、根幹、基本姿勢であり、大きな切り口である。他市と同等といった話を市長はされるが、手厚く予算を組んでいる方だと思う。少子化の話も含めていろんな意見を頂きたい。</p>
--	--

(4) 市長との懇談「男女共同参画の推進について」

委員と野田市長の懇談会を行った。

<各委員発言要旨>

澤田龍明会長	<p>全ての分野が男女共同参画に関係してくるため、皆様から活発に発言して頂ければと思う。</p>
岩切久仁委員	<p>地域会議における女性構成員の比率13.6%という数値は、全部の会議がだいたいそのくらいということか。</p>
事務局	<p>7つの地域会議それぞれであり、40%のところもあれば、微々たるところもある。応援センターの意識の違いも関係してくるものと思われる。目標値を設定する時、高くしたかったが、実際そうもいかなかった。カルチャー的に、女性イコール婦人部といった感覚が大勢を占めているものと思う。</p>
岩切久仁委員	<p>地域会議のメンバーの数はどうやって決めるのか。</p>
事務局	<p>それぞれの地域会議で決めている。</p>
岩切久仁委員	<p>20人のところもあれば、30人のところもあり、それぞれということか。</p>
事務局	<p>本当であれば、若い人とかが活発に出られれば良いと思うが。</p>
野田市長	<p>女性構成員は役員の数で、地域会議のメンバーはその地域に住む人達全員のことである。あくまでも意思統一は役員で行うということ。地域の皆さんの取り組みが、人材育成に繋がっていく。今、始まったばかりであり、逆に、協議会でその意思を広めて頂ければ良いと思う。</p>
岩切久仁委員	<p>女性は長生きなので、地域にとっても女性役員が増えるのは良いと思う。</p>
野田市長	<p>スタートとしては良かったかなと思っている。温かく見守りながら進めていければと考えている。教育委員会との兼ね合いであるが、私の職権が及ばないところである。今の時代、教育委員会は独立というのは如何なものかということで、その溝の解消も図るべく、校長先生達と話をした経緯がある。市民からよく言われるが、地元を好きになる人、郷土愛が少なくなってきたこと。学校の先生も同様の認識をされているようで、今年度から、釜石版のコミュニティスクール事業を実施する運びとなっている。これは、校長先生にいろんな権限を与えて、学校を核とした地域コミュニティを促進するほか、子ども達の健全な成長を促すというもの。今、スタートしているので、そういったところから色々変わっていくのかなと思っている。ただ、お母さん方など保護者から、声が出るような運動展開にしなければならないと思っている。PTAとの懇談も必要で、上から来るのは簡単だが、地域、保護者等から声が上がってくるという形が理想。</p>
平野嘉隆委員	<p>市長には、以前、青年会議所でも話をして頂いた経緯がある。人口の減少、今もそうだが、やがて大きな社会問題となってくる。そういった中での少子化問題である。そこで、どうすれば良いのか考えたが、現在、共働きせざるを得ない経済状況にあるため、働きやすい環境、職場環境が大切であるとの考えに至った。</p>
野田市長	<p>地域が継続できる社会づくりとはどういうものか。人口問題を考える時、構成比率も重要で、例え5万人、10万人いても、65歳以上の方が50%という状況であれば、限界集落とも言える状況で、継ぐ人々がいるかといった問題も浮上する。人口ピラミッドが、現在、逆三角形となっているが、これを寸胴型に変えていくため、多産高齢化としていく必要がある。次世代がいるかないかの人口</p>

	<p>の構成比率が問題であり、数の問題ではない。どうしたらそういう地域をつくっていけるか、今4万人がやがて3万人になっても耐えられる地域づくりを進めたい。</p> <p>雇用の部分、政策が欠けているので、なんとかここに手を入れたい。雇用の場の問題は、簡単なようで難しい。地域産業を活性化させ、働く場をたくさんつくっても、派遣やパートといった労働者の待遇面の問題もある。貧困が少子化の問題、原因である。今、年収200万円の人が4人に1人と言われるが、釜石自体、そうなる可能性がある。ですので、企業の皆さんは、利潤追求だけではなく、有り方について考えてもらいたい。</p> <p>地域貢献分野において優良な企業を認定するといった、地域発展のための制度をつくらうと考えている。実施に向けて、今、検討中だが、これについては是非やってもらいたい。</p>
平野嘉隆委員	<p>うちの業種は水産業で、パートが多いが、勤務時間を4時半までに縮めた。4時半に終わると保育園の送迎ができるということで、30代の人からの問合せが多くなった。ちょっと前まで、水産加工という働く人がいなかったが、近年、30～40代くらいの就業希望者が多くなっている。</p>
野田市長	<p>最近の有効求人倍率であるが、釜石が0.22で、遠野は0.19と過去最低の状況となっている。企業訪問を行い、協力を訴えかけたい。</p>
清原美夏委員	<p>幼児がいる。実家が釜石のため、子育てについて面倒を見てもらっていたが、今度、実家が引っ越すこととなった。はじめて一時保育を利用して、今回参加した。誰もたよるところがなかった。盛岡、宮古、花巻にはファミリーサポートセンターがあって、子育ての経験者が保育を担い、一時保育をやってもらったりしているようだった。報酬を支払いつつやっている。生きがいが欲しい、ちょっとお金も欲しいという人達の協力を得て、釜石でもそういう取り組みを進めても良いのではないかと。</p> <p>混合名簿について、校長先生とのギャップがあるようだが、厚生労働省と病院の関係に似ている。どのように考えているのか、PTAの人達も内に秘めた気持ちがあるように思う。アンケートを実施するか、懇談会を行ってみてはいかがか。もっと密に話し合いを持っていく必要があると思う。</p>
野田市長	<p>保育ママのことだと思うが、待機児童がゼロとなっている中で、ニーズがあるかなど、検討しているところである。まず、やる人がいるかどうかである。そして、そこに子どもさんがいるかどうかである。効率性の問題もあり、なかなか踏み切れないのではないかと。例えば、中妻で働いている人が、鶴住居に子どもを預けなければならないといった状況では大変なので、保育ママで解消という方法もあると思う。地域の実情に沿った形で進めなければならない。</p> <p>県の教育委員会、市の教育委員会、地元といったような縦割りではなく、教育も地方分権といった気持ちを持ってもらった方が良い。先ほど話したコミュニティスクールが、校長先生から教育へとつながる手段である。地域会議にも、校長先生に入ってもらおうこととした。上から下に降ってくる考え方はやめた方が良いと思う。</p> <p>混合名簿については、直接携わる者の不便さも関係してくると思う。以前、幼稚園の園長を務め、混合名簿を導入した。現場の先生は不便さを感じていたようだった。不便な面もあるが、あたり前のことを便利さで分けてきた経緯がある。大切なのは理念であり、いずれ当事者の皆さんが理解してくれなければならない。</p>
清水静枝副会長	<p>混合名簿については、その人らしくが前面に出てくるはずなのに、勘違いが生まれている。</p> <p>縁あって、こんにちは赤ちゃん事業に携わっている。3人目が増えており、子どもの数が多くなってきている気がする。また、外国人との結婚も多くなってきている。元気の良い母親を見ると、将来、明るいかと思う。高齢化でも元気なまちづくりを進めていければ良いと思う。</p>

野田市長	<p>全くそのとおりである。地域では60歳とか70歳の人達が頑張っているケースがたくさんある。釜石は女性が長命で男性が短命という傾向がある。男性のお年寄りが大変で、亡くなってから一週間後に発見されるというケースもある。生活応援センターもなかなか手が回らない。いくら元気を出せと言われても、日々の生活の土台が無ければはじまらない。</p> <p>今の若いお母さん達は大変だ。3人の子どもがいるのは恵まれた家庭で、条件がそろっている。隣近所の助け合いも大切で、どんどん増やして頂きたい。まず結婚してほしい。これまで水産加工研修で中国から100人の人が来たが、10人は地元の人と結婚した。ありがたいことだ。</p>
平野嘉隆委員	<p>大船渡で行われた出会いパーティーがきっかけで結婚したという人が当社に来ている。</p>
野田市長	<p>釜石でも、昨年度、合コンお料理教室を実施し盛況だった。今年も取り組む予定で、今度8月1日に釜石湾漁協の青年部が出会いの場創出事業を実施する。場所は、嬉石の釜石湾漁協嬉石研修センターである。昨年度の例で言うと、本人はもとより、親からの申し込みもあった。</p>
岩切久仁委員	<p>結婚しなければ子どもが産まれない。</p>
野田市長	<p>引き続き、婚活支援にも力を入れていきたい。</p>
佐々木晴美委員	<p>今の時代はとても恵まれていると思う。私の子育て時代は、育児休暇などもつてのほかであった。小さな子ども達に、男女共同参画、その人らしさを育てていくことが大切だと思う。</p> <p>私は、子育てが終わって介護の時代になってきている。子どもが大学に行くと楽になるが、育ててくれた両親は老人となり、体が弱くなる。自分の時代、どうなっていくんだろうという不安が頭をよぎる。私達の世代ではそういう話がされている。孤立している家もある。</p> <p>子育てに優しいまちづくりを、このまま進めていってほしい。</p>
野田市長	<p>少し前までは、産めよ増やせよと言わなくとも、生活設計の見取り図を描けた。一番良い例は、お年寄りを皆で面倒みるといった環境。今、病院で亡くなって、自宅ではなく葬祭会館に行くといったケースも増えている。我々は小手先のことしか出来ない。</p> <p>市民の皆さんは、いつの間にか生活が苦しくなった。人生哲学をまとめようとしても時代が先に行くといった状況。少子化は目の前の問題に留まらず、男女共同参画、全体に係わる問題で、課題も膨大かつ深い。我々としては、やれることをこつこつとやっていくしかない。ライフスタイルへの支援である。</p> <p>国も仕組みをきちんとつくってもらわなければならない。隣の大槌町との合併の問題もあるが、広域の枠組みづくりが重要であり、隣の町がやれば我々もやらなければならないといった競争ではなく、ある程度、共通の土台も必要になってくる。圏域がプラスマイナス、釜石が減っても大槌はいるといったように、周りを考えながら取り組んでいきたい。</p> <p>皆様の知恵を拝借したい。</p>
佐藤みゆき委員	<p>男女の視点が幅広になっている。安心して暮らせる環境づくりが大切と思うが、母子・父子家庭の経済状況が悪化していて、学費の支出が困難といった問題などがネックとなっている。高校入学前の支援が必要と思われる。子育て応援特別手当といったものもあるが、今年度一回限りではその効果も不明。釜石で何か支援できないものか。お金が無いというのが問題だと思うが。</p> <p>3人に1人が65歳以上といったように高齢化がどんどん進んでいる。認知症も増加してきている。子育てと介護が重なったらどうなるのか不安に思う。</p>
野田市長	<p>高機能障害は男性が多い。認知症が殺人事件を誘発するケースもあって要介護認定の項目に入っているのに対し、これに類する高機能障害は認定の対象外である。なんとか安心できる人達が一人でも多くなるよう努めたい。</p>

	<p>一人親が多くなってきている。児童扶養手当受給母子世帯は390件。これに対し父子世帯には支援策がないため、数が把握できていない。学校を聞くと10人くらいはいるようだ。母子寡婦福祉協会が窓口となっていていろいろやっているが、年輩者と若い世代にギャップがあり、母子と寡婦で意見のまとまらない部分がある。このため、改めて母子協が課題解決に向けた姿勢を示しており、相談できる体制づくりの事業を行うこととなっている。自分のところだけではなく、そういった人達との話し合いを持つことが重要である。</p> <p>児童扶養手当は出されているが、国が生活保護の母子加算を廃止した。就職先がない中で、働く方に力を注ぐというのいがかがなものか。</p> <p>釜石出身の方が、離婚して帰ってくるというケースがあるが、実家があればともかく、なければやはり生活できないということで、再度向こうに行ってしまうケースもある。経済問題で結婚が左右されるという状況はよろしくない。子どもが安心して暮らすことのできる環境づくりが必要。</p> <p>財源も非常に厳しいが、母子・父子にも力を入れているというメッセージを発信していきたい。地域福祉課児童家庭係が、母子寡婦との話し合いの場をつくる予定。</p>
澤田龍明会長	<p>人口構成の問題が出された。引越しシーズンの3月から4月にかけて、ガス栓の開閉作業があるが、開栓より閉栓が20件程度多い。就業人口が減っている。県の広域振興局は残るが、それはそれで大事なこと。</p> <p>いずれ少子化問題の克服が重要。昨年、釜石よいさのお囃子を募集したが、中学生がなかなか集まらない。PTAの活力も必要である。</p> <p>元気なまちづくりが一番大事である。釜石商工の生徒が、毎朝、おはようございますと挨拶してくるのは非常に気持ちいい。役所の職員から率先して子どもへ声をかけてほしい。お金のかからないまちづくりだ。地域に活力があるということの良いこと。</p>
野田市長	<p>我々に欠けていた部分がある。黙っていても、行政や何処かが動いていると思っている。自らやっていかなければならない。お金は限られているが、効果は序々に現れてきていると思う。これからもお力添えを頂きながら進めていきたい。</p>
澤田龍明会長	<p>今日の話も踏まえ、市ではかなりの女性の方が管理職に登用されるのではないかと思う。計画を立てて、これから事業を推進していくに当り、指標が改善していくように進めて頂きたい。次の協議会には、男女混合名簿が100%となるのも期待したい。</p> <p>今回、夢が叶って市長に出席頂き、有意義な懇談が出来た。最初から最後まで出席して頂いたのは、私が10年間参加してきた中で初めてである。次回も参加して頂けるものと期待している。</p>

(5) 閉会